

令和4年 新春座談会

皆さま明けましておめでとうございます。
新年にあたり、各分野で町を支える8人の皆さんと4人の広報編集委員が、座談会を開催しましたので、その様子をお伝えします。



赤坂文弘 教育長

小菅正美 農業委員長

小谷野泰一 民生委員・児童委員長

青木文雄 行政区長会長

小池敏郎 商工会長

今村好市 議会議長

川邊国雄 消防団長

新年の抱負 くりばらみのる 栗原実 板倉町長

町民の皆さまの健康を第一に考え、コロナ禍の一日も早い収束を願っています。また、町のトップとして自らの健康にも気かけなければと思っています。町長に就任して14年目を迎え、これまでできるものについては、ほぼ解決してきましたが、防災、大学、企業誘致、産業、人材育成など1つずつでも課題を減らしていきたいと考えています。また、さまざまなかたの意見を取り入れながら、総合計画を策定しましたので、これを進展させていきます。



横塚編集委員 人口減少問題は板倉町だけの話ではありませんが、行政サービス、教育、医療、防災などについて、町の考えをお聞かせください。

栗原町長 確かに板倉町でも年々人口は減少しています。出生数に比べ、亡くなる方が多くなっています。若者たちが少なくなると、さみしさを感じたり、不活性化を感じられるのではないかと思います。

化してきていることを実感し、行政サービスなどにも影響があると思っています。ただ、見方を変えると、例えば話になります。10個のまじゅうを10人で食べると、一人1個、5人で食べれば一人2個ずつ食べられます。学校での勉強なども、少人数の方が深く教えられる。そういう面から考えれば利便性を高めることができ、むしろ活性化を感じられるのではないかと思います。

もし同じ予算としたら少人数の方が豊かであるといえます。人口が減って税収が減った分、企業誘致が行えれば税収を見込むことができます。政策的に進める際には、多角的に見てよりよい選択をしていこうと思っています。

また板倉町では、小中学校の給食費の無料化を続けています。山間部などの人口が少ない自治体などでは、時々見られる施策ですが、平野部でしかも板倉町規模の自治体としてはなかなか見られないものです。福祉という高齢者のためのものと思われがちですが、若い人を支えるための一助になっていると思います。

金額にすると外食1回程度かもしれません。行政の援助がなくても子育てはできるという意見もあるのは承知していますが、それならばぜひそのお金を残して、子どもたちの将来のために生かしていただければと思います。

町の予算の約1%を当てていますが、当面は町の子どもたちのために続けていきたいと考えています。

横塚編集委員 東洋大学板倉キャンパス移転後の跡地利用については、現在どのような状況でしょうか。

栗原町長 東洋大学についてはこの20年ちよつとの間、ずいぶんと紆余曲折がありました。国際地域学部が移転し、その代わりに環境科学部が設置されました。板倉町のみならず、館林邑楽地区全体に利があったと思っていますし、我が町にずっといてくれるものと思っています。

しかし、東洋大学は群馬県や板倉町から約50億円の恩恵を受けているにもかかわらず、一方的に出て行きたいということになりました。自らの都

合だけで撤退するというのは、人間を教育する場である大学という立場としていかなるものかと思っています。

土地についても大学のものであるわけですが、撤退したとしても持つて行くわけにはいきません。

板倉ニュータウンの土地にしても県が買取して販売しています。町は販売の手伝いをしていく立場です。

次も大学を誘致すべきと考えるかたもいらつしやると思っています。進出したいという学校があるという噂程度のものは耳にしたこともあります。

しかし、日本屈指のマンモス大学である東洋大学が経営できなかつたものが、少子化に向かうなか、ほかの大学にできるのかというのは疑問です。

大学からの税収というものは今まではありませんでした。学生の实体经济も町にはほとんどありませんでした。

撤退も見方を変えればチャンスに変えられるものなのか、県の協力も仰ぎつつ、産業系の土地利用も視野に入れながら、新しい年をよい方向に向かわせたいと思います。

新年のごあいさつ訪問の自粛について
新年を迎えるにあたり、例年、関係機関や関係者の皆さまに対して訪問でのごあいさつをさせていただいておりましたが、新型コロナウイルスの第6波が懸念されている状況に配慮し、昨年到现在もごあいさつ訪問を自粛させていただきます。
板倉町長 栗原 実



新年の抱負 **小菅正美** 農業委員会会長

板倉町は農業が盛んな町です。少子高齢化により農家数や農業従事者は年々減少しているとはいえ、県内でも有数の米の産地であり、小麦、きゅうり、キャベツ、ニガウリ、花卉なども栽培が大変盛んです。

また近年は、法人による大規模な経営が行われるようになるとともに、経営規模を拡大したい農家も増えています。

農業委員会では、農業委員10人、農地最適化推進委員12人と協力し、そういったかたが農地を効率的、省力化を図れるよう、集積・集約化を進めていきたいと考えています。



新年の抱負 **今村好市** 板倉町議会議員

大きな課題として2つ考えています。

まずはコロナ感染対策。町民の健康を守るためにどうことができるのか、動向を見て取り組みたいと思います。邑楽・館林地域の医療体制の強化と行政と医師会の連携強化をより一層進めたいと思います。

また、安全安心の面では、国の災害予測が、1000年に一度の規模に引き上げられました。将来のために、ぜひ渡良瀬遊水地の治水能力の強化や、堤防の強化などを流域の自治体と一緒に積極的に取り組みたいと思います。

川田編集委員長 地方議員になりたいというかたが少なくなっていると聞きますが、このような状況をどう思いますか。議員としての魅力は何ですか。

今村議長 十数年、板倉町では定員割れや無投票だったことはありませんが、確かに政治行政への参加意欲は薄れているのかと思います。

板倉町は農業などの自営業のかたが多くいきましたが、現在はサラリーマンのかたが増えました。例えば議会中は仕事が休めるとか、議員をやめたときに復職できるといった制度があれば、議員をやりたいと思うかたも増えると思います。実際に全国議長会では、国に対しそういった要望を行っています。また以前は、青年団、婦人会、消防団やPTAなど、さまざまな団体活動で行政との関わりが多かったように思います。

議員報酬は市議会議員と比較し、かなり低いです。これは町でどうかでできるものではないと思いますので、国から交付税などでフォローしてもらいたくないと思います。

議員の魅力についてですが、町の課題はたくさんあります。議員から町に提言してそれを実現するというやりがいもあります。

毎年「議会報告会」を行っていますので、皆さんが選んだ議員が、どんな活動しているのか、ぜひ確認していただきたいと思っています。

間田編集委員 遊休農地や後継者不足に対する対策や支援についてお聞かせください。

小菅農業委員会会長 遊休農地については、板倉町では増えていない状況にあります。

農業委員会では、遊休農地にしないための支援策として、きめ細やかな耕作条件の改善を機動的に実施したり、農地中間管理機構への農地集積の推進を図るなど、各地域の実情に合わせた支援を行っています。

今後も法人や規模拡大の意向を持つ農家さんのためにも、土地改良事業などによる区画整理や大区画化など農地の集積・集約化を進めていくことが遊休農地を増やさないための方策だと思います。

後継者不足は否めない現実であると考えます。対策としては、各種補助金を活用するなどして、経営安定化や担い手の育成を行っていく必要がありますが、農業に関心があり、新規就農を考えているかたなど向けのイベント開催や、就農後の農業経営安定のために就農支援制度を活用していきたいと思っています。

また、農業団体などの活動支援も積極的に行っていきたいと考えています。



新年の抱負 **小谷野泰一** 民生委員・児童委員協議会長

昨年はコロナ禍ということもあり、なかなか民生委員・児童委員としての活動ができませんでした。令和4年はぜひ訪問や見守りなどを行っていきたくと思っています。

私たちは、地域の皆さんが同じように生活できるように、地域福祉のお手伝いをしています。個人の秘密などは、絶対に守られます。困りごとや相談事があれば、何でも話してほしいと思います。

高橋編集委員 小中学校にタブレットが配布されましたが、ICT教育を含めた今後の教育方針などを教えてください。

赤坂教育長 今年重点を置きたい教育方針は三つあります。

一つ目は、抱負の部分でも触れましたが「凡事徹底」を大切にした教育です。「不易流行」の流行がGIGAスクール構想なら、不易は学習や生活の基礎基本を大切にしたい。これは、今も昔も、これからは変わらないものだと思います。町ぐるみで連携して取り組めば、想像以上の成果が得られると思います。

二つ目は、GIGAスクール構想の充実です。昨年五月末に小中学校の全児童生徒にタブレットを配布しました。まずは、使ってみよう、慣れてみようということを進めてきました。予想以上に抵抗なく導入できたと思います。今年も、更に有効活用を進めたいですね。どんな場面で、どう活用できるか、教育委員会として専門家を導入した支援も考えていきたいです。

三つ目は、コロナ禍であっても教育を止めないことです。教育は待ったなし教育があります。感染の拡大を考えれば安易に再開はできませんが、どうすれば実現可能なのかを小中学校と教育委員会とで考えを出し合って進めていきたいと思っています。

高橋編集委員 少子高齢化が進む中、普段の活動で、大変なことや課題と感ずることがあればお聞かせください。

小谷野民生委員・児童委員協議会長 今は普段の活動というのができていない状態です。私たちは高齢のかたの一人暮らしや、心配事や困り事があった場合に、行政につながるボランティア活動を行っています。現在はコロナの影響で活動自体が難しいです。孤立化しているかたがいるのではないかと、大変心配です。

それでも落ち着きを取り戻しつつある今から、「通いの場」や「サロン」など、皆さんが集まれる場を広めて行きたいと思っています。現在もやっているのですが、更に充実させていきたいです。皆さんぜひ近くの「通いの場」などにお出かけください。感染対策をしながら、体を動かしたり、おしゃべりをしたりすることは大変よいことです。お待ちしております。



新年の抱負 **赤坂文弘** 板倉町教育長

令和4年も、引き続き学びの充実を目標にしたいと思います。

よく、先行き不透明な社会といわれます。これからは、予測不能な困難にどう対応し、どう乗り越えていくのかという力が求められています。その変化に対応する力の根幹になるものが「確かな学力」だと思います。

その確かな学力を充実させていくために、「凡事徹底」を掲げて、学習や生活の基礎基本を大切にしたい教育を行っていきたくです。子ども達の20年後の未来は、今創られているという想いを持って取り組んでいきたいと思っています。

新年の抱負 ^{かわべくに} **川邊国雄** **板倉消防団長**

2年間ポンプ操法大会などの行事が中止になったり、延期になったりしています。今年も警戒度の上がり下がりなどがあるかもしれませんが、状況に応じて訓練を行っていくつもりです。やはり消火の技術などを伝えていくことが大切だと考えていますので。

火消祭なども開催できれば、そういった場で地域の皆さんとも交流を図りたいと思います。



新年の抱負 ^{あおきふみお} **青木文雄** **板倉町行政区長会長**

安全で安心な暮らしやすい地域づくりを行っていただければと思っています。地域住民同士の交流などから、きれいで明るい地域の環境づくりをしていきたいと思っています。

また、町にはさまざまな団体がありますが、そういったかたたちとも連携を深めていきたいと考えています。



川田編集委員長 行政区再編から6年が経過しますが、行政区に関連したことで改善した方がよいと思われるところがあればお聞かせください。

青木行政区長会長 行政区の再編から6年ということですが、再編後も行政区ごとに、さまざまな取り組みべき課題があると思います。

例えば路上のごみ問題もあるでしょうし、住民同士の交流なども進んでいないようなこともあるかと思っています。ご質問の「改善」とは、少し違う答えになってしまいかもかもしれませんが、区長の話し合いの場として、区長協議会というものがありません。そういった場を活用することで、行政区ごとの課題を共有し、解決するための前向きな活動につなげていければと思います。

また、子どもたちの成長を地域で見守る活動、例えば伝統的な行事や資源回収などを通じて、子どもたちとの交流の場や機会を作ることが、安心して暮らせるまちづくりとなり、ひいては地域が抱える人口減少対策につなげていくものと考えています。

間田編集委員 コロナ禍で十分な活動が行えていないと思いますが、今後の消防活動に支障はないでしょうか。また、消防団の魅力をお聞かせください。

川邊消防団長 確かにしばらくの間は十分な訓練ができてきたとはいえないかもしれませんが、消防団としても実際の出動となったときのために、日頃の訓練が必要と考えています。

そこで昨年からは、消防署にお願いして、新たな試みを始めています。それは、各分団が重点的に行いたい項目、この部分が不足していると思われることについて、7つの目標を立て、通年訓練を行うものです。

例えば新しい訓練として、もし消火のための水源が遠かった場合に、各分団が持つポンプ車をホースで接続し、連携することで放水を可能にするなどの方法を取り入れています。

また、消防団の魅力ですが、なんといっても知り合いや仲間が増えるということではないでしょうか。現在は20歳代から50歳代のかたまで入団していますが、コロナの影響により、現在は団員同士のコミュニケーションも少なくなっています。やはり感染対策を行いながらでも交流は大切にしていきたいと思っています。

新年の抱負 ^{こいけとしろう} **小池敏郎** **板倉町商工会長**

コロナ禍で、町の商業、工業、特に飲食店は大変な痛手を被っています。商工会としても、積極的にできることをやっていきたいと思っています。

現在は、町の特産品が少ないのではないかと考えています。できれば専門家の力を借りて、板倉町の特産品や名物を作りたいと考えています。

そういったものを商工祭のような場で皆さんにアピールしていきたいです。



横塚編集委員 町の商工業の発展と町の活性化に向けて行っていただきたいことがあれば聞かせてください。

小池商工会長 現在町の商工業は新型コロナウイルスの影響で大変厳しい状況におかれています。予定されていた行事などもことごとく中止や延期となっています。

商工会の会員も増えてきましたが、まだまだ多くの事業者が加入していただけないと思っています。商工会に入会していただき、ともに共済制度などで支え合い、将来の安心につなげられればと思います。

また、それぞれの経営の安定のために、専門家を招いての経営計画の策定を支援していきたいと考えています。

昨年は青年部や女性部の会員が県の表彰を受けるなど、多方面で活躍している状況もあります。

令和4年はコロナ対策に気をつけながらも、皆さんが食などを行えるようになり、町が活性化することを願っています。

2022年が皆さんにとって素晴らしい1年となりますように
広報編集委員一同



横塚修編集委員 ^{たかはしなほみ} 高橋直美編集委員 ^{かわだふじこ} 川田富知子編集委員長 ^{まひらたのりゆき} 間田憲志編集委員